薬師如来立像

盧舎那仏の左側に座しているのが、薬師如来です。この薬師如来立像は、三尊像の中でも少し遅れて作られたと考えられています。1972 年に立像が修復された際には、左手掌の中から 3 枚の古銭が見つかり、像が平安時代（794-1185）に作られたとする説を裏付けるものとなりました。

高さ 3.3 メートルの像が見せる伏目がちな表情は、祈りを捧げるために遠くから訪れる虚弱な者たちに向けるような、偽りない思いやりの心を感じさせます。

薬師経によると、薬師如来は仏の道を歩む全ての者に加護を与える「最高の仏」であり、「世間における衆生の疾病を治癒して寿命を延べ、災禍を消去し、衣食などを満足せしめ、更に仏行を行じてこの上ないお悟りを人々に振り向けんと誓い、仏と成った」とされます。

興味深いことに、薬師経は日本の第 40 代天皇である天武天皇（631-686）が 686 年に病に冒されるまで、その名を知られない存在でした。720 年に完成した日本書紀には、天武天皇が僧に薬師経の解説を求める場面が描かれています。天武天皇が快復することはありませんでしたが、この時から薬師如来の人知を超えた力への関心が広がったとされています。